

大学生のかんきょう活動の^{かつせい}活性化をめざして

Q1: 2008年12月に6回目のエココンが、2日間、ありました。このエココンには、^{なんだんたい}何団体がさんかしましたか。

Keita: 58の団体がさんかしました。1日目は、58の団体を8グループにわけて、グループの中では^{はっぴょう}はっぴょうをして、一つのグループから、一つの団体をえらびました。そして、2日目にその8団体がはっぴょうしました。みんな、5分間というみじかい時間に、自分たちの活動について、はっぴょうしました。

Q2: どんな団体が^{しょう}賞をもらいましたか。

Asuka: 今年は名古屋の団体が一番いい賞をもらいました。この団体は、えいがかんなどと^{きょうりよく}協力して、リサイクルできるコップを使ったり、レストランからもらった古いオイルなどを使ってキャンドルを作って、キャンドルナイト（電気を使わないでキャンドルだけですごす）をしたりしています。

Keita: 前のコンテストでは、かんきょうのクイズを作って、ホームページにのせている団体が賞をもらいました。そのホームページはケータイから見ることができます。

その前のコンテストでは、かんきょうの^{ざっし}ざっしを、ただで^だだしている団体が賞をもらいました。ちきゅうにも人にもやさしいアイデアを、おしゃれにたのしく、わかりやすくせつめいしています。

Q3: なぜ、エココンのスタッフになりましたか。

Keita: 大学の外で、社会のための活動をしたいと思っていました。大学生のコンテストを大学生がうんえいしていることと、コンテストのテーマに、かんきょうもんだいを使っていることがおもしろいと思いました。

Asuka: 毎日、テレビや新聞で、かんきょうのもんだいを聞いたり読んだりしますが、自分に何ができるだろう、とかんがえました。そして、まず大学の中のかんきょう活動をするサークルに入りました。「自分の近くからかえる」ことをもくひょうにして、大学の中の店のレジぶくろをへらしたりしています。でも、大学の中だけではなく、ほかの大学生や社会人もいっしょに何かやりたいと思いました。

Q4: エココンのスタッフになって、どんなことを学（まな）びましたか。

Keita: 前は、わりばしをやめるために、マイはしを持ってあるいたり、レジぶくろをやめるために、マイバッグを持ってあるいたりする人を見て、「それが本当にやくにたつのかどうか、わからない」と思っていました。

でも、それが、そこで終わるのではなくて、多くの人や町に広がっていくことがわかりました。だから、かんきょうもんだいだけをかんがえるのではな

くて、社会のいろいろなものとのつながりの中で かんきょうもんだいを考えて 活動していきたいと思うようになりました。

A s u k a : エココンにさんかした人達から、「学生のあつい気持ちに動かされた」「私達の思いがわかってもらえてうれしい」とよく聞きます。人は、さいごには、あたまより 心で動くものだと思います。だから、自分の思いを ほかの人に ちゃんと つたえるどりよくを するようになりました。そして、自分の小さな力が 社会に いいえきょうを あたえられる所で 働きたいと思います。